

臨時レポート

(審査確認番号H29-TB370)

FOMC(米連邦公開市場委員会)今年3回目の利上げを決定

市場の予想通り利上げを決定、2018年の利上げ見通しは変更なし。

- ▶ 12月のFOMCでは当初の予想どおり今年3回目の利上げを決定。利上げは市場に織り込み済みとの見方が多く、注目された2018年の利上げ見通しは9月会合時の3回から変更なし。
- ▶ 声明では前回の景気判断が維持され、市場では多くのメンバーが入れ替わる来年3月に示される経済見通しが今後の金融政策にとって重要であるとの見方も。

<市場の予想通り今年3回目の利上げを決定>

- FOMCは12月13～14日の定例会合で、市場の大方の予想通り政策金利を引き上げ1.25～1.50%としました。市場では今回の利上げよりも、2018年の利上げ見通しが引き上げられるかが注目されていましたが、FRB議長交代を前に9月と変更なく3回となりました。声明では「経済活動は底堅い拡大が続いている」と前回11月と同様の景気判断を示しました。公表された経済見通しでは現在議会で審議中の税制改革により2018年の経済成長率が緩やかに引き上げられるとし、来年の実質国内総生産(GDP)の見通しを+2.5%(前年同期比)へと上昇させ、失業率の見通しは3.9%へと引き下げられました。
- 11月30日に発表されたFRB(米連邦準備制度理事会)がインフレ指標としている食品とエネルギー価格を除いた10月のコア個人消費支出(PCE)物価指数は、前年比で+1.4%とFRBが安定水準と見なす2%を下回る状態が続いています。雇用環境では11月の失業率は4.1%とFRBが完全雇用とみなす水準を下回っています。一方で賃金の伸びは依然低い状態が続いています。11月29日に発表された7月～9月期のGDP改定値は年率換算で前期比+3.3%と速報値から上方修正され、3年ぶりの大幅な伸びとなりました。堅調な経済成長、雇用環境が良好な中でも賃金は思うように上昇せず、物価が2%を下回る状態が続く中、大幅に参加メンバーの入れ替わりが予定されている2018年のFOMCの金融政策への注目度が増していくと思われれます。

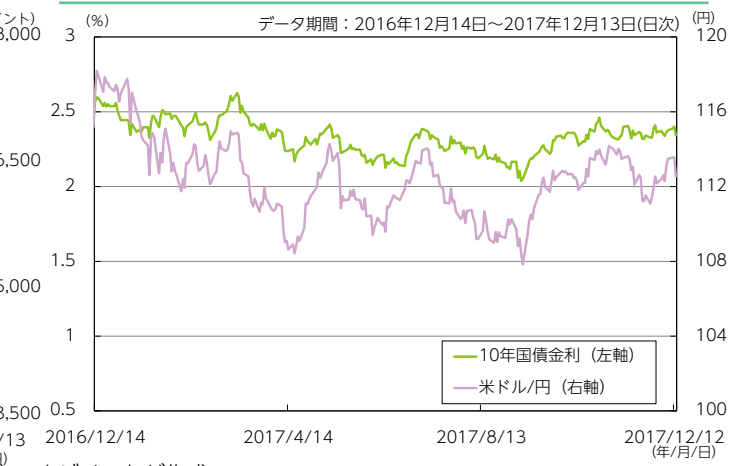
<想定どおりの内容で市場の反応は限定的。市場の関心は来年3月FOMC公表の経済見通しか>

- 米国株式市場は、良好な経済指標等を受け続伸を続けていたNYダウは事前の予想どおりの結果を受け、5日続伸の史上最高値更新となりました。株高をうけ金利が上昇していた米国債券市場は来年の利上げ見通しに変化がなかったことを受け金利は低下(価格は上昇)しました。週初のNY爆弾テロ発生によるリスクオフの動きから円が買われるもその後反発し、FOMCを前に手控えムードの強かった為替は金利が低下したことで円高/ドル安の動きとなっています。事前の予想どおりの結果にいずれの市場も反応は限定的となりました。今後の金融政策の注目は新議長のもと大幅にメンバーが入れ替わる来年3月公表の経済見通しに移っていくものと思われれます。

図表1：米国株式指数の推移



図表2：米国債券・為替の推移



出所) 図表1、図表2はブルームバーグデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

●当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。●当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。●投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。●手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品をお勧めするものではないので、表示することができません。●当資料のいかなる内容も将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会